

計画の名称	32 高山駅周辺における市民や観光客の移動の利便性、安全性の向上		
計画の期間	平成26年度 ~ 平成29年度 (4年間)	交付対象	高山市
計画の目標	高山駅の橋上駅舎化と併せて、自由通路の新設や駅へのアクセス道路の整備、区画整理事業等を行い、市民や観光客の移動の利便性及び安全性の向上とともに、飛騨地域の玄関口としてふさわしい都市空間の創出を図る。		
計画の成果目標(定量的指標)	①年間の高山駅鉄道乗降客数及び発着高速バス利用者数を調査する。1,477千人(H26当初)から1,550千人(H29末)に増加させる。 ②年間の観光客入込み数を調査する。3,945千人(H26当初)から5,000千人(H29末)に増加させる。		

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H26当初)	中間目標値	最終目標値 (H29末)							
①年間の高山駅鉄道乗降客数及び発着高速バス利用者数を調査する。	1,477千人	-	1,550千人							
②年間の観光客入込み数を調査する。	3,945千人	-	5,000千人							
全体事業費	合計 (A+B+C)	6,471百万円	A	6,471百万円	B	— 百万円	C	— 百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	0.0%

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業実施関係課にて実施	平成31年5月 公表の方法 高山市ホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H26	H27	H28	H29	H30		
A-1	街路	一般	高山市	直接	高山市	区画	改築	高山駅周辺地区((都)花里本母線外2路線)	施行区域 A=8.6ha	高山市						1,267	H29線
A-2	街路	一般	高山市	直接	高山市	S街路	改築	(都)西之一色花岡線	現道拡幅 L=496m	高山市						780	
A-3	街路	一般	高山市	直接	高山市	S街路	改築	(都)高山駅東西線	自由通路新設 L=120m	高山市						3,904	
A-4	街路	一般	高山市	直接	高山市	S街路	改築	(都)高山駅東口線	現道拡幅 L=233m	高山市						520	H29線
合計																6,471	
B 関連社会資本整備事業(該当なし)																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H26	H27	H28	H29	H30			
合計																	
C 効果促進事業(該当なし)																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H26	H27	H28	H29	H30			
合計																	
番号	一体的に実施することにより期待される効果																
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業(該当なし)																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H26	H27	H28	H29	H30			
合計																	
番号	一体的に実施することにより期待される効果																

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 高山駅鉄道乗降客数及び発着高速バス利用者数については、目標を達成することが出来た。 観光客入込み数については、目標未達成であったものの、増加実績となるなど事業効果の発現が見られた。 				
II 定量的指標の達成状況	指標① 年間の高山駅鉄道乗降客数及び発着高速バス利用者数	最終目標値	1,550千人	目標値と実績値に差が出た要因	目標値 1,477千人(H26当初)→1,550千人(H29末) 約1.05倍に対し、実績値 1,477千人(H26当初)→1,754千人(H30末) 約1.19倍となり目標を上回る伸びとなった。駅前広場等の整備によりバス発着数も増加しており、これらが高い伸びの起因となった。
		最終実績値	1,754千人		
	指標② 年間の観光客入込み数	最終目標値	5,000千人	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	4,442千人		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 自由通路やアクセス道の整備により駅東西が融合し、移動が活性化した。また、区画整理後の土地には民間のホテル等商業施設の建設が相次いでおり、市内の経済活動が活性化されている。 アクセス道の整備により駅東西の渋滞が緩和した。 駅及び駅前広場の整備により、市民や観光客の移動の利便性・安全性の向上とともに、飛騨地域の玄関口としてふさわしい都市景観を創出している。 				

3. 特記事項(今後の方針等)	今後も引き続き、適切な維持管理に努め、高山駅周辺における市民や観光客の移動の利便性、安全性の確保する。
-----------------	---